

1 子どもを取り巻く現状

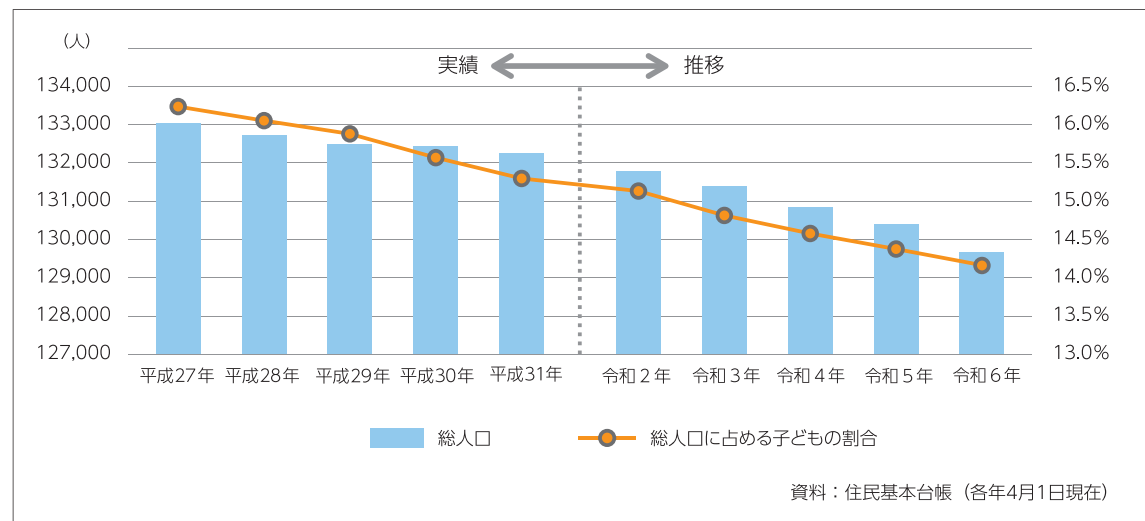
日本の急速な少子高齢化は、人口構造にひずみを生じさせています。そのために労働力人口は減少し、社会保障費は増加するなど、社会や経済への深刻な影響を与えています。

また、核家族化の進展、地域におけるコミュニティの希薄化、児童虐待の顕在化、経済的に困難な状況にある世帯における子どもたちの貧困の連鎖、若年層における自殺の深刻化など、子どもと家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。

データから見る我孫子市の現状

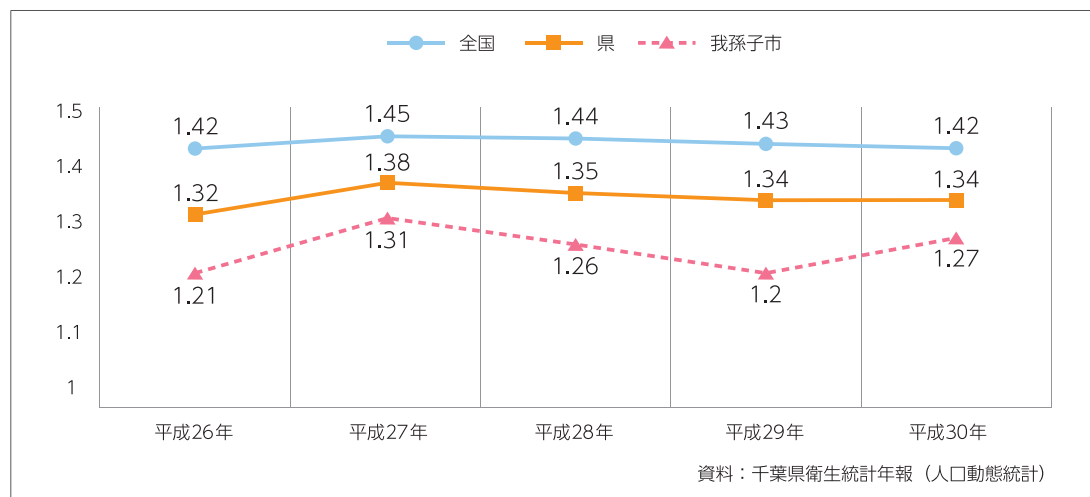
○ 子ども人口の減少

総人口とともに総人口に占める子ども人口(0歳～18歳)の割合も減少しています。今後も更に少子高齢化が進むことが見込まれます。



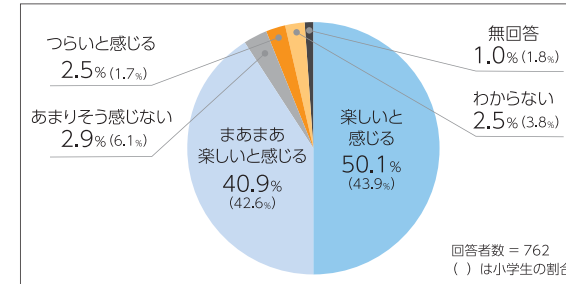
○ 合計特殊出生率

全国・県と比較すると低い値で推移しています。



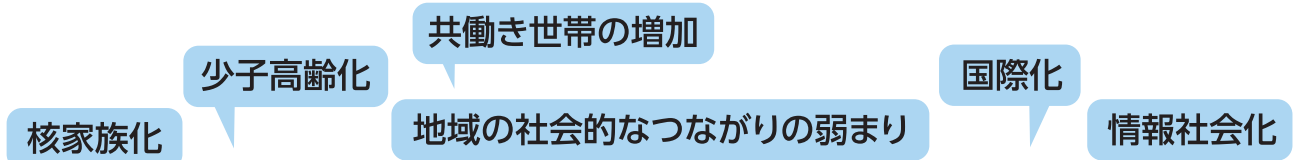
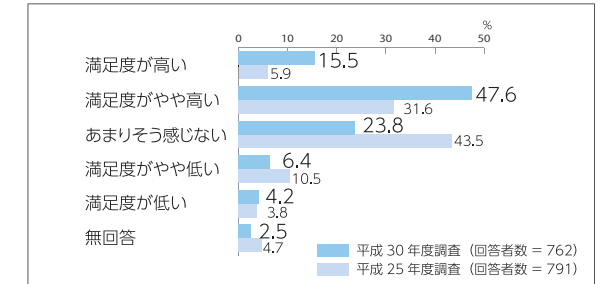
○ 子育てをどう感じるか

未就学児童では、「楽しいと感じる」と「まあまあ楽しいと感じる」をあわせた「楽しいと感じる」が91.0%、「あまりそう感じない」と「つらいと感じる」をあわせた「つらいと感じる」が5.4%となっています。



○ お住まいの地区における子育ての環境や支援への満足度

未就学児童では、「満足度が高い」と「満足度がやや高い」をあわせた「満足度が高い」が63.1%、「満足度が低い」と「満足度がやや低い」をあわせた「満足度が低い」が10.6%となっています。



子どもや子育て家庭をめぐる環境も大きく変化



気軽に相談できる人がいない人

未就学児の保護者 **3.7%**
小学生の保護者 **8.8%**

(平成30年度子ども総合計画子ども・子育て支援に係るニーズ調査)

自分のことが好きだと思わない子ども

小学生 **35.4%**
中学生 **50.7%**

(平成30年度子ども総合計画に係る意識調査)

このような状況の中で「あびこの自然やひとの愛に包まれてすべての子どもが自分らしく育つまち」を実現するため、4つの基本目標のもと施策を実施していきます。